

セブンイレブン・マレーシア・ホールディングス(SEVE) 事業の選択と集中。高生産性の「セブン・カフェ+生鮮食品」型店舗を首都圏のクランバレー中心に建設へ

マレーシア | 食品・薬店 | 業績フォロー

BLOOMBERG SEM:MK | REUTERS SEVE.KL

- 2024/12期4Q(10-12月)は、継続事業売上高が前年同期比7.4%増、税引き前利益が黒字転換。売上高販管費率が同7.7ポイント低下へ改善。
- 12月末時点の合計店舗数が前年同期比69店増の2635店。生産性の高い「セブン・カフェ」付きへの改装店舗数が同289店舗増の536店舗
- 「セブン・カフェ+生鮮食品」型の店舗を中心に、首都圏のクランバレーで1000店舗までの生鮮食品販売店の建設を予定。

What is the news?

2/27発表の2024/12期4Q(10-12月、継続事業であるコンビニ事業のみ)は、売上高が前年同期比7.4%増の7.45億MYR、営業利益が前年同期の▲28百万MYRから26百万MYRへ、税引き前利益が同▲48百万MYRから9百万MYRへ黒字転換。コンビニエンスストア事業における店舗数の増加に加え、年末商戦の盛り上がりといった季節要因が1日当たり平均販売額を押し上げた。他方、利益面では、人件費の減少およびメディア向け広告費用の削減により売上高販管費率が同7.7ポイント低下の34.2%へ改善したほか、純金融費用の減少および合弁事業からの投資損失の減少も貢献した。前四半期比は、売上高が0.1%増、営業利益が16.3%減だった。

4Qのコンビニエンスストア事業における営業指標は、12月末時点の合計店舗数が前年同期比69店増の2635店に拡大。うち、生産性が高い「セブン・カフェ」付きへの改装店舗数が12月末時点で同289店舗増の536店舗と、伸びが加速している。

How do we view this?

マレーシアは2025年の実質GDP成長率が4.5-5.5%と予測される中、今年2月から最低賃金が月額1500MYRから1700MYRへ引き上げられたことは消費者の購買力向上を通じて同社へ追い風となるだろう。その一方、今年6月から実施されるRON(オクタン価)95ガソリンの値上げ、および7月以降マレーシア半島部の基本電気料金が約14%引き上げられることは逆風となる可能性もある。

そのような中、同社は2023年12月に薬局事業を担うケアリング・ファーマシー株式保有分のうち75%分をBigファーマシー・ヘルスケアへ売却して得た資金をコンビニ事業へ回すなど、事業の選択と集中を推進している。「セブン・カフェ」付き店舗の拡大は、生鮮食品との組み合わせで成長加速の原動力になると期待される。それに加え、クアラルンプールを中心とした首都圏であるクランバレーで1000店舗までの新たな生鮮食品販売店の建設を近いうちに予定している。現地で調達される高品質の食材を使った、すぐに食べられるように(Ready-To-Eat: RTE)パッケージ化した食品への取組みも生鮮食品販売の伸びにつながっている。

「セブン・カフェ+生鮮食品」型の店舗フォーマットの拡大により利益率の向上が見込まれる。

業績推移

※参考レート 1MYR=33.43円

事業年度	2022/12	2023/12	2024/12	2025/12F	2026/12F
売上高(百万MYR)	3,764	2,783	2,925	3,112	3,307
期利益(百万MYR)	66	261	41	63	67
EPS(MYR)	0.06	0.24	0.04	-	-
PER(倍)	30.90	8.22	50.00	-	-
BPS(MYR)	0.12	0.32	0.31	0.42	0.46
PBR(倍)	15.45	6.17	6.45	4.69	4.28
配当(MYR)	0.03	0.03	0.03	0.03	0.04
配当利回り(%)	1.62	1.52	1.50	1.52	2.03

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

配当予想(MYR) 0.03 (予想はBloomberg)
終値(MYR) 1.97 2025/3/17

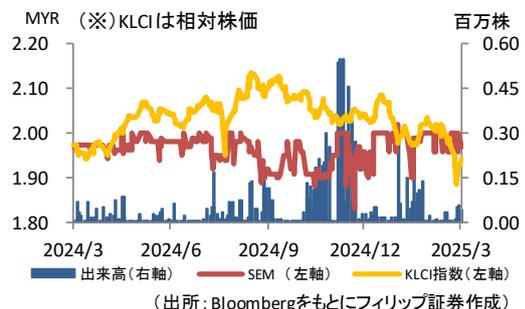
会社概要

1984年設立のマレーシア最大のコンビニエンスストアチェーン。産業コングロマリット大手のベルジャヤ・グループ傘下の企業。「セブンイレブン」の店舗名で1984年に第1号店をクアラルンプールで出店。2024年12月末現在、マレーシアで2635店舗を展開している。Slurpee やBig Gulpといった同社独自のブランドを含め、2,200以上の製品ラインアップを提供する。

2020年に、薬局チェーン店を展開するマレーシア首位のケアリング・ファーマシー・グループを買収したが、2023年12月に売却した。現在は合弁事業の下でインドネシアの薬局について事業が継続され、同社は合弁事業からの投資利益を通じて関わっている。

企業データ (2025/3/18)

ベータ値	0.14
時価総額(百万MYR)	2,185
企業価値=EV(百万MYR)	3,229
3か月平均売買代金(百万MYR)	0.08



主要株主 (2025/3)

株主名	(%)
1.CLASSIC UNION GROUP LTD	26.27
2.Tan Chee Yioun	20.45
3.PERTUBUHAN KESELAMATAN SOSIAL	4.60

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

リサーチ部

笹木 和弘

kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp

+81 3 3666 6980

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会認定アナリスト、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考としてレポートの作成者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害について、フィリップ証券も、本レポートの作成者も、責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載することを禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則（平14.1.25）」に基づく表示>

・フィリップ証券または本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。